



走れ



4年生の国語の教科書に「走れ」という教材文があります。走るのが遅くて、春の運動会の日がとても憂鬱だと感じている主人公ののぶよ、走るのが早く、去年1年生の時もぶっちぎりで1位になり、今年はお母さんが見に来るのを楽しみにしている弟のけんじ、お弁当屋さんでいつも忙しく仕事を頑張っているお母さんが登場します。お互いの気持ちを理解した時の心情の変化が読み取れる教材の一つです。

私自身も運動会が近づくたびに「のぶよさん」と同じ気持ちになっていたときがありました。走るのが苦手だったからです。運動会なんて無ければいいのに、と思っていた時もありました。今となっては思い出の話ですが、当事者にとっては深刻なことです。

勇氣



今年の運動会に向けても、子どもたちの中には様々な思いがあることでしょう。運動会が早く来ないかなと楽しみにしている人もいれば、そうでない人もいるかもしれません。運動は大好きだけど、ケガをして力が発揮できるか心配な人もいます。誰だって自分の弱いところや苦手なところを他人に見せたくはありません。それを実行に移すにはとても勇氣が必要です。結果がどうであつたとしても、苦手なことに挑戦したその勇氣に、大きな拍手を送りたいと思います。

運動会は得意なことも苦手なことも全部含めて自分だということを表現できる機会の一つです。このような経験の積み重ねが、子どもたちの成長の糧となっていきます。私自身も6年生の時に、雨の中で踊った「田原坂」を思い出します。寒かったけど、最後まで踊り切れたという満足感が、今でも心に残っています。子どもたち一人一人に最高の思い出となる運動会であれば嬉しいです。



支えるもの



みんなががんばる

昇降口の正面にスローガンを掲示しました。その下の掲示板に子どもたちのメッセージが書かれています。

先生たちも朝からライン引きやコーンの準備を頑張っています。

先生もがんばる

